



国民の森林・国有林

中部森林管理局

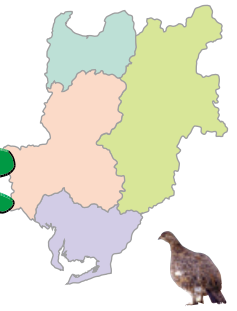
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



「学校林・遊々の森」全国子供サミット in 信州の様子



広めよう!

森づくりの大切さの輪を全国へ!

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 学校林・遊々の森等で活動する全国の小学生が松本市に集合! …………… P2
	○ 信州環境フェア・木曽音楽祭で国際森林年等をPR …………… P3
	○ 各地からのたより …………… P4
	○ 風景紀行 …………… P10



オイスカ海外学校林関係者との交流会の様子



緊張しながら精一杯プレゼンを実施



ドバスアートが完成して満足げ

児童達は、高原の清々しい空気を感じながら美ヶ原高原自然保護センターに戻り、各班で「ふりかえり」を行い、自然散策を終りました。この後、昼食を取り、それぞれに別れを惜しみながら美ヶ原高原を後にしました。

なお、次回（平成二十四年度）は、近畿中国森林管理局管内において開催される予定です。

「指導普及課」八月四～五日の二日間、「広めよう！森林づくりの大切さの輪を全国へ！」をテーマに「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 信州を松本市において開催しました。

本サミットは、学校林や遊々の森での自然体験活動の取組を広げていくことを目的として、平成十九年に東京都八王子市で開催したのが始まりで、今回で5回目となる全国子どもサミット in 信州は、林野庁、中部森林管理局をはじめ長野県、松本市及び民間団体（公財）オイスカ、やまぼうし自然学校等）が実行委員会となり準備・開催したものです。

**学校林・遊々の森で活動する
全国の小学生が松本市に集合！**

初日、会場となった松本市浅間文化センターには、全国から二十の小学校の児童や教師の他、スタッフ、協賛企業等の関係者、一般の傍聴者ら約百六十名が参加。冒頭、本サミット実行委員長である小林秀幸氏（オイスカ長野県支部事務局長）が主催者を代表して挨拶し、地元松本市の吉江厚教育長から、歓迎の挨拶がありました。

引き続き、本日のプログラムとして、国際森林年に合わせて、オイスカ職員から海外の森林の現状や環境保全等のプロジェクトの様子が報告され、併せて5グループに分かれて海外の学校林関係者から自国の森林や自然環境の様子についてパソコンを使つての説明があり、児童も熱心に聞き入っていました。

その後、全参加校による、森林体験活動のプレゼンテーションが行われ、児童達はこの日のために練習してきた成果を發揮して、それぞれ工夫をしながら思い思いに活動の様子を伝えていきました。

また、会場には、協賛企業による環境保全活動のPRパネルや環境グッズ、海外の児童が描いた絵画が展示され、サミットを盛り上げました。



みんなで一致協力して活動を発表！

発表会終了後、宿泊場所に移動し、全員で夕食をとり、夜の部では、児童らはナイトウォークの他、ドバスアートに挑戦し、教師の方は自然体験や活動における意見交換会に参加するなど、それぞれに交流を深めました。

二日目は、朝からバス三台に分乗して美ヶ原高原に向かい、夏の高原での自然散策を実施しました。



美ヶ原では放牧した牛が出迎えを

初めに、中信森林管理署の担当者より美ヶ原高原の概況やニホンジカによる高山植物の被害及び対策等の説明を受けた後、十班に分かれ局、中信署のインストラクターによる案内で、最も高い王ヶ頭（標高二、〇三四m）と王ヶ鼻を目指して自然散策を行いました。途中、王ヶ頭では霧により視界が不良でしたが、王ヶ鼻に着くころには、霧も晴れ上がり、切り立った断崖の眼下には松本平や遠くは北アルプスの山々も見渡せるようになり、参加した児童や教師の方々も一同に感動した様子でした。

信州環境フェア2011でのPR活動について

「企画調整室」八月二十日、二十一日に開催された信州環境フェア（信州環境フェア実行委員会主催）に、長野林政協議会（長野県林務部・中部森林管理局）の取組として参加し、民有林と国有林の連携による森林づくり、地球温暖化防止対策、国際森林年等をPRしました。



森林クイズに答えてすてきなプレゼントをもらおう

を推進し、持続可能な社会を構築する契機とすることを目的としたものです。今年で十一回目の開催となり、会場となった長野市ビッグハットには二日間であって約一万一千人が来場されました。

今年の長野林政協議会のブースでは、昨年に引き続きゴルフボールを落としてコンクリート・鉄・木材の堅さの違いを観察するコーナーや、モモやプルーンなど実のなる木を削って作った手のひらサイズの工作物を手にとってもらい木のぬくもりを感じてもらおうコーナー、カラマツブロックで遊んでもらうコーナーなどを設けました。

子供連れの家族を中心に沢山の方々に実際に触れたり感じたりすることで五感に訴えることができたと思います。また、森林の働きなどを紹介するパネルを展示しましたが、より興味を持っていただくためにパネルの内容をふまえたクイズも行いました。「長野県の森林面積は全国で何番目でしょうか」、「今年国際森林年ですが日本でのメインテーマは何でしょうか」など、ちよつと頭をひねる問題に大人から子供まで楽しく取組んでいただけでした。

今後地球温暖化防止のための間伐の推進や木材利用など民有林と国有林の取組や連携について関心を持っていただけるよう長野県の協力のもと積極的に活動していくこととしています。

木曽音楽祭で国際森林年をPR

「総務課」八月二十六日から二十八日まで長野県木曽町で開催されたクラシック音楽のイベント「木曽音楽祭」（木曽音楽祭実行委員会主催）の会場において、中部森林管理局より国際森林年のPR資料や「木曽式伐木運材図会」の写真パネルなどを展示しました。

「木曽式伐木運材図会」はわが国の代表的な林業地として知られた木曽地方や飛騨地方において、江戸時代から大正時代頃まで行われていた伐木・運材の様子を描写した絵巻であり、現在中部森林管理局で保管しています。

木曽音楽祭では、毎年コンサートチ



音楽祭の開催前のアトラクション
（背景に写真パネルを展示）



興味深そうに展示をご覧になる皆さん

ケットのデザインとして「木曽式伐木運材図会」からのカットが使用されており、こうしたご縁から、今年主催者のご厚意によりコンサート会場ロビーに当局からの展示スペースを設けさせていただきました。

会場を訪れた方々は、開演前の待ち時間などに展示スペースに足を止め、いしへの林業の様子が描かれたパネルや国際森林年の資料を興味深そうにご覧になっていました。

クラシック音楽のイベント会場での展示ということで、一風変わった取り組みでしたが、国際森林年の意義や、古くから木曽山で営まれてきた林業に対する理解の醸成に資することができたものと考えています。

各地からのたより

軽井沢国際森林年記念

シンポジウム

〔東信署〕 当署では、国際森林年に関し、軽井沢国際森林年記念事業実行委員会（軽井沢野生動物問題研究会クロス、東信森林管理署）主催による「軽井沢国際森林年記念事業」を行っています。

この事業の一つとして、八月二十一日（日）、軽井沢町中央公民館大講堂において、「国際森林年を機に我々は森林とどうつきあうのか～軽井沢からの提言～」をテーマに、軽井沢国際森林年記念シンポジウムを開催しました。



シンポジウムの様子

シンポジウムの第一部では、東京大学鬼頭秀一氏による「森林と人の関係を探る」、速水林業速水亨氏による「美しい人工林を育てる」、NPOやまぼうし自然学校加々美貴代氏による「思いを形に」の講演を行いました。

鬼頭氏からは、森林経営が難しい現状の中で、当事者の楽しみや情熱に基づく「遊び仕事」を通じて自然を維持する必要性について学術的な話がされ、また速水氏からは、世界的、歴史的視野からの林業や木材利用の現状に触れながら、手入れの行き届いた美しい人工林経営の実績や、森林認証の取組など実践的な話があり、さらに加々美氏からは、やまぼうし自然学校を導き築いてきた思いとそれを支えてきた人間関係のほか、自然体験活動の取組状況について紹介され、理論と実践が噛み合った講演となりました。

第二部では、講演いただいた三氏に軽井沢町長藤巻進氏が加わって、成城大学打越綾子氏をコーディネーターとしてパネルディスカッションを行い、聴講者から回収した質問等を中心に活発な議論が交わされました。

会場内では協賛団体のパネル展示も行い、百五十人を超える参加者からは、「自然に関わる事の大切さを理解した」、「人工林を見直した」、「国産の木材を使わなければ」といった感想や、「このような取組を続けてほしい」といった声が寄せられました。

自然観察ツアーを開催

〔東信署〕 八月二十七日（土）、軽井沢国際森林年記念事業のイベントの一つとして自然観察ツアー「軽井沢と草津をつなぐ」を行いました。

同事業の中では、三回の自然観察ツアーを計画しており、今回は、六月十二日（日）に行った「カラマツの新緑を楽しむ」に続く第二回目の開催となり、約八十名が参加しました。



ツアーに参加された皆様

午前中は小浅間山の登山を行い、浅間山を中心とする火山地形や自然環境を観察しながら歩きました。途中、浅間山の火山活動の歴史が観察できる断層地形で説明を受けた参加者は、天明三年の大噴火による一辺を超える堆積物を目の当たりにして噴火規模の大きさに驚いていました。

午後からは、かつて軽井沢と群馬県草津をつないでいた草軽電鉄の軌道跡を辿りながら、時速十五キロメートルでゆつくりと走っていた小型電気機関車にまつわるエピソードを交えた説明を聞きながら、当時使われていた枕木、電柱、橋梁跡などを探訪し、歴史と自然にふれるツアーを楽しんでいました。

伝統工芸継承に向け森林整備

～「南木曾伝統工芸の森」で汗を流す～

〔南木曾支署〕 八月三日、「南木曾伝統工芸の森」（南蘭国有林六〇九林班）において、「南木曾伝統工芸の森育成協議会（以下協議会）」の構成員である南木曾ろくろ工芸協同組合、蘭松笠生産協同組合の他、名古屋シテイ・フォレスト隊員十七名、蘇南高校の生徒三名の計二十八名が森林整備作業（下刈等）に汗を流しました。

「南木曾伝統工芸の森」は、南木曾町の工芸品であるろくろ細工や松笠、サワラ桶の関係者からなる南木曾伝統工芸の



地元蘇南高校の生徒も作業に参加



草刈作業をする参加者

森育成協議会と当支署の間において、森林整備を通じて、木の文化の継承を目的に、平成十八年に協定を締結し、以降毎年森林整備を実施しています。当日は、草刈作業及び生育に支障とな

るハンノキの伐採に汗を流し、参加者からは「木々の生長が楽しみ」「地元で使う木を後継者に残す取り組みなので、長い目で見て行いたい」など感想が聞かれました。初めて参加した蘇南高校の生徒は当支署職員及び古屋シテイ・フォレスター隊員の指導を受け、下刈及び除伐作業に汗を流していました。今回、作業をした森が南木曽ろくろ細工等の伝統工芸品の材料として利用できるまで百年から二百年の長い年月を必要とします。

今後とも協議会及び地域だけではなく、将来を担う子供たちや下流域のボランティアの力を借りながら幅広い取組を進め、「木の文化を支える森づくり」について情報発信していくこととしています。

シリーズ 現場最前線

安全で効率の良い業務に努める

木曾森林管理署開田森林事務所班

当事務所の国有林は御岳山東側山麓一帯及び開田高原の中央を流れる西野川及び末川上流に位置しており、大部分が木曾川支流の源流部となっています。

開田高原（旧開田村）は標高が高く、木曾町開田支所の標高は一、一〇〇メートル



林道刈払いの様子

あり、高原野菜（特にとうもろこし、白菜）の生産が盛んです。御岳山東側山麓の新高国有林の標高の高い箇所には、木曾谷ではめずらしいコメツガ、シラベ、アオモリトドマツなど亜高山性の成熟した森林が育成されています。

また、山麓の森林については、スキーなどの野外スポーツをする場（開田高原マイアスキー場）としてレクリエーションの森に指定されており、隣接する開田高原保健休養地とともに開田高原におけるレクリエーション施設の一画を形成しています。

当事務所の現場班は基幹作業職員四名と臨時作業員（OB）一名の合計五名で、除伐二類、枝打ち、つる切り、歩道

修理、境界巡検、林道維持修繕など、幅広く作業を行っています。

現場作業にあたっては、毎朝班長とその日の天候や作業内容に応じた安全作業の確認等ミーティングを行い、安全で効率的な業務に努めています。

国有林の山造りに対しては、「この山はもう枝打ちをした方がよい」等森林官が聞く前にこうしたいとの要望が出るほど、作業班全体が熱意と誇りをもって取り組んでいます。

現場は四月下旬まで降雪があるほど標高が高く、寒いところですが、今後とも班長を中心としたミーティングや毎月の安全懇談会を大事にして、無災害で健康で明るい職場環境づくりに努めていきたいと思えます。

行事・協議会の予定

◎国有林野事業労働衛生週間

10月1～7日

◎森・ふれあいフェスタ

10月1日 松本市

◎名古屋シテイ・フォレスター事業

10月13日 愛知所管内

10月21日 飛騨署管内

10月29日 愛知所管内

◎親子の森林体験教室

10月15日 北信署管内

◎森林ふれあい講座

10月15日 愛知所管内

准フォレストスター等研修の 実施状況

「森林技術センター」岐阜県下呂市の森林技術センターを実施拠点に、七月四日に開講した准フォレストスター研修と林道専用道技術者研修は、八月十日に前半のカリキュラムを終了し閉講しました。

准フォレストスター研修は、全国に先駆けて実施し、地元岐阜県をはじめ遠くは京都府、一府八県の県職員と国有林の流域管理調整官等、総勢八十二名が受講しました。

研修では、森林・林業再生プランの概要や准フォレストスターの役割、市町村森林整備計画の講義等に加え、森林施業の実行監理、ゾーニングと森林施業の考え方やグループによる演習を行い、准フォレストスターとしての知識・知見などの習得を図ったところです。

また、七月十一日に開講した林業専用道技術者研修は、中部局管内四県の他、石川県、福井県、三重県の県・市町村職員、コンサル会社社員などに国有林の森林土木技術者等、総勢六十五名が受講し、林業専用道作設指針や設計のポイントなどの講義と、既設林道を題材に設計・施工時の留意点等の現地研修を通じて、今後の路網整備について理解を深めました。

講義、演習では、林野庁職員の内部講師のみならず、各カリキュラムに応じて

学識経験者、有識者等の外部講師からも指導・助言を受け、受講生からは、地域の森林づくりに広い視野を持つて取り組んでいきたい等の声が聞かれたところです。

後半の研修は、九月二十六日から准フォレストスター研修の二週目が、十月三日から林業専用道技術者研修の三週目がそれぞれ開講され、十一月十一日に今年度の准フォレストスター等研修は全て閉講する予定です。

● 研修の経過

◎ 准フォレストスター研修の実施状況

一 開講式

岐阜県立森林文化アカデミー学長、下呂市長ほか多数の来賓を迎え開講式を開



開講記念式典での来賓挨拶

催。

城土局長からは森林・林業の再生に向けた一連の動きを踏まえ、市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行う「准フォレストスター」への期待と激励の挨拶。

二 オリエンテーション

中部ブロック研修のプロセスマネージャー伊藤栄一氏（森のなりわい研究所代表）の進行による研修生へのオリエンテーションを実施。

研修生の緊張を和らげるため、一週目②研修からは簡単な自己紹介を取り入れる。



オリエンテーションの様子

三 講義

①森林・林業再生プランの概要、准フォレストスターの役割

林野庁内部講師から森林・林業再生プランの概要及び准フォレストスターの役割について講義。

日本型フォレストスターは広域的、長期的な視野を持つて地域の森林経営のビジョンを描き、中立的な立場で地域の関係者を指導する、地域の森林・林業の牽引者など。（森林施業プランナーは事業体の立場で事業計画、施業提案を作成。）



講義の様子（研修生から質問も活発に）



② 森林施業の集約化（提案型集約化施業）

外部講師の岐阜県森林組合連合会 三島喜八郎副会長から森林施業の集約化について、事例を交えての講義。

③ 路網と作業システム

外部講師の京都大学 長谷川尚史教授及び名古屋大学 山田谷三准教授から路網と作業システムについて講義。



外部講師（写真右：京都大学の長谷川准教授、左：名古屋大学の山田准教授）

④ 森林施業の実行監理演習（仮想集約化施業演習）

林野庁内部講師及び中部局内部講師から森林施業の実行監理演習の目的等を説明。森林施業プランナーに対し支援、指導・助言する際の視点等を養う。

間伐生産性・コスト分析シートを作成し、年間必要事業量、コスト計算の基礎等を理解する。

地形・地質等を踏まえた、丈夫で簡易な、間伐に使いやすい道づくりについての理解を深める。



分析シート作成(右)、よりベターな路網配置(左)



⑤ 市町村森林整備計画演習（ゾーニング）

林野庁内部講師及び中部局内部講師から市町村森林整備計画演習（ゾーニング）の目的、進め方及び演習地の概要等を説明。地域の自然的、社会的条件を背景として、発揮が期待される機能に応じた森づくりについて検討する手順、ポイントを習得。演習エリア内のゾーニングを行う。



グループ毎のゾーニング作業の様子（右）、発表の様子（左）

四 現地演習

① 仮想集約化団地の現地演習

研修二日目に各グループが机上で検討した森林作業道等の線形を現地において確認。

現地踏査結果を踏まえ、各グループがベターと考える森林作業道等の線形などを発表。



グループに分かれ現地踏査（右）、発表の様子（左）



グループ検討の様子 (右)、発表後の助言・コメントの様子 (左)

②森林施業検討会
 実際の施業地において、森林簿、施業履歴、地形図等の森林情報から、将来の森林の姿（目標林型）、現状の森林からの誘導方法（施業方法）について各グループで検討し発表。
 外部講師の信州大学 植木達人教授から専門的な見地から助言・コメントを受ける。



講義の様子 (右)、研修生の質問の様子 (左)

◎林業専用道技術者研修実施状況
 一 講義
 ①林業専用道作設指針等の概要
 林野庁内部講師から森林・林業再生プランの概要及び林業専用道作設指針等の概要について講義。

③現地研修の準備
 外部講師の(株)中部森林技術コンサルティング 植田洋二参与から二日目に行う現地研修当該箇所の概要説明及び当該箇所の図面に林業専用道の線形を机上で検討する講義。
 各グループに分かれ検討した線形を図面に。



当局の内部講師より講義

②森林施業、作業システムに関する基礎知識と配慮すべき留意点
 中部局内部講師から林業専用道の設計・開設における留意点（森林整備事業との関係）について講義。



グループ検討の様子



外部講師の植田さんの講義

④今後の活動に向けたディスカッション
 林業専用道技術者研修を受講して理解
 できた事項、調査設計又は施工において
 発注者として留意する点など、講師、研
 修生間で意見交換等を行う。



講師と研修生がディスカッション



検討結果の発表の様子



線形について現地踏査



調査設計の留意点、ポイントを説明

二 現地研修
 ①検討線形の現地踏査
 一日目に各グループが検討した線形に
 ついて現地踏査により確認。
 踏査結果を踏まえグループ内で再検討
 した内容の発表、意見交換。

②林業専用道の調査設計等
 外部講師の(株)中部森林技術コンサルタ
 ンツ 平沢唯司技術課長から既設林道を用
 いて林業専用道の調査設計における留
 意点、ポイントなどを説明。
 研修生は調査設計又は施工における留
 意点等について発表、意見交換。



留意点などの発表の様子



光小屋稜線より富士を望む



南アルプス南部の登山口「遠山郷」

長野県飯田市上村・南信濃地区を総称して遠山郷と呼ばれています。遠山郷は、南アルプス（赤石山脈）の南部西側に中央構造線に沿って遠山川が南下し、南アルプスの登山口であるとともに、遠

山の霜月祭りに代表される歴史を有した町です。飯田市街地から東に向かい車で約一時間程の位置にあります。

◆南アルプス南部の登山口

南アルプス最南の三、〇〇〇峰の聖岳（標高三、〇二三メートル）とハイマツ群生の日本最南端の地を望む光岳（標高二、五九一メートル）の百名山への長野県側の登山口にあたり、南から鶏冠山、池口岳、加々森山、光岳、イザルガ岳、易老岳、仁田岳、茶臼岳、上河内岳、聖岳、兎岳、大澤岳そして赤石岳へ続く尾根は大自然のまっただ中にあり、朝日が富士山より昇る季節はご来光を仰ぎいただく峰々がそこにあります。しかし、落石を繰り返す林道と登山口より尾根まで五時間を超える急登が待っており、体力がかなり必要なことから、中級以上の登山者にお勧めのルートとなっております。

◆遠山の霜月祭り

(国重要無形民俗文化財)

十二月に入ると順次、遠山郷各地区の神社において、日本国中の神々を呼び集めて、各神社には湯釜が置かれ、数時間にわたり古くから伝わる数々の面を拝した舞がつぎ、大きな釜は熱湯をたぎらせ、クライマックスには舞いながら素手で熱湯をまくといった湯立神楽を奉納する霜月祭りは、山深いこの里の厳しい自然の中に息づいた素朴な信仰とエネルギー

ギーを今に伝えていきます。

◆下栗の里（ふるさと百選）

国道一五二号線から車で約二十分ほど登ると山の斜面に上村「下栗」という集落があります。平らな部分は各家々の敷地で畑は平らなものを探すことはほとんどできません。集落の中をつづら折りに通る道は当然大型車は通行困難な狭隘なものとなっております。この下り坂を初めて運転する時は曲がり道で道の先が見えず足の震えを覚えることでしょう。春は新緑の芽吹きと山桜が谷から登り、秋には紅葉がアルプスの尾根から下る遠山谷の風景を一望できます。童話作家椋鳩十氏はこの遠山谷からいくつもの童話を誕生させています。



耕して天に至る下栗の里集落

この地域の国有林野は南アルプスを主体に管理し森林生態系保護地域など各種保護林のみならず、地元の方々と共に後世に残す努力を行っています。

◆アクセス

(下栗の里所在地)

長野県飯田市上村

○車でお越しの場合

中央自動車道飯田ICから矢筈トンネル経由で七十五分。

○公共交通機関を利用の場合

JR 飯田駅から路線バス遠山郷線で六十分、上町バス停下車、バス停からタクシーで十五分。



霜月祭「湯立ての神事」